

「近代日本と明治学院」開講にむけて

播本 秀史

2004年4月より、「近代日本と明治学院」が開講されます。それに因んで、開講の主旨と経過について記しておきます。

2001年5月23日のキリスト教研究所所員会議において、橋本茂所長より、「建学の精神、明治学院の歴史、歴代人物などを中心とした単位制の総合講座を開講したらどうか」という提案がなされた。審議の結果、研究所内にプロジェクトチームを結成し、2003年開講を目指して活動してゆくこととなった。

2002年5月30日発行「あんげろす」28号に、橋本茂所長のシラバスが提示された。また、同年9月30日発行「あんげろす」29号には真崎隆治所員（教養教育センター教授）による『明治学院学』ヴィジョンが掲載された。その間の7月には、キリスト教研究所一泊研究会で「明治学院学」が取り上げられ議論されている。

2003年度に入り、橋本茂社会学部教授がサバティカルで、中山弘正経済学部教授が新所長となった。2003年4月の所員会議で中山所長より「明治学院学」(仮称)の開講に向けて本格的に動いて行こうという呼びかけがあった。それを受けて、開講のためのカリキュラム内容その他についての打ち合わせ会(第一回目)が5月14日に開催された。出席メンバーは、中山弘正所長、遠藤興一主任(社会学部教授)、加山久夫文学部教授、大西晴樹経済学部教授、播本秀史文学部助教授であった。この「仮称『明治学院学』企画運営委員会」制作の案が所員会議の了承を得て、「全学共通科目」へ科

目提供された。

遠藤主任原案の「新設科目設置趣旨」には「キリスト教主義教育の充実、発展とともに、より広い大学教育という見地から明治学院教育全体の充実、発展をめざして、新たな科目を設置し、教育的な側面から、“明治学院”大学としてのアイデンティティを、より一層広く育てたいと思う」と記されている。

2004年度は春学期、金曜5限横浜で開講される。2005年度は春学期、金曜6限白金で開講される。1年次から4年次まで学部所属を問わず自由に履修できる。11名の先生がそれぞれ、明治学院に関係する人物・思想・事件を取り上げ講義する(講義概要のブックレットあり) また、オプションとして、横浜、築地のゆかりの地を訪ねる催しも用意されている。

明治学院を研究することを通して、同時に近代日本の歴史も照射されることであろう。また、人間の生き方、在り方もおのずと問われてくるものと思われる。

この授業がより実りあるものとなるよう、多くの皆様方のご助言、ご協力をお願い申し上げます。(執筆にあたり、教学事務アシスタント白岩真理さんより会議記録等の資料提供でお世話になりました。感謝して記します。)

(はりもと ひでし 所員・文学部助教授)

